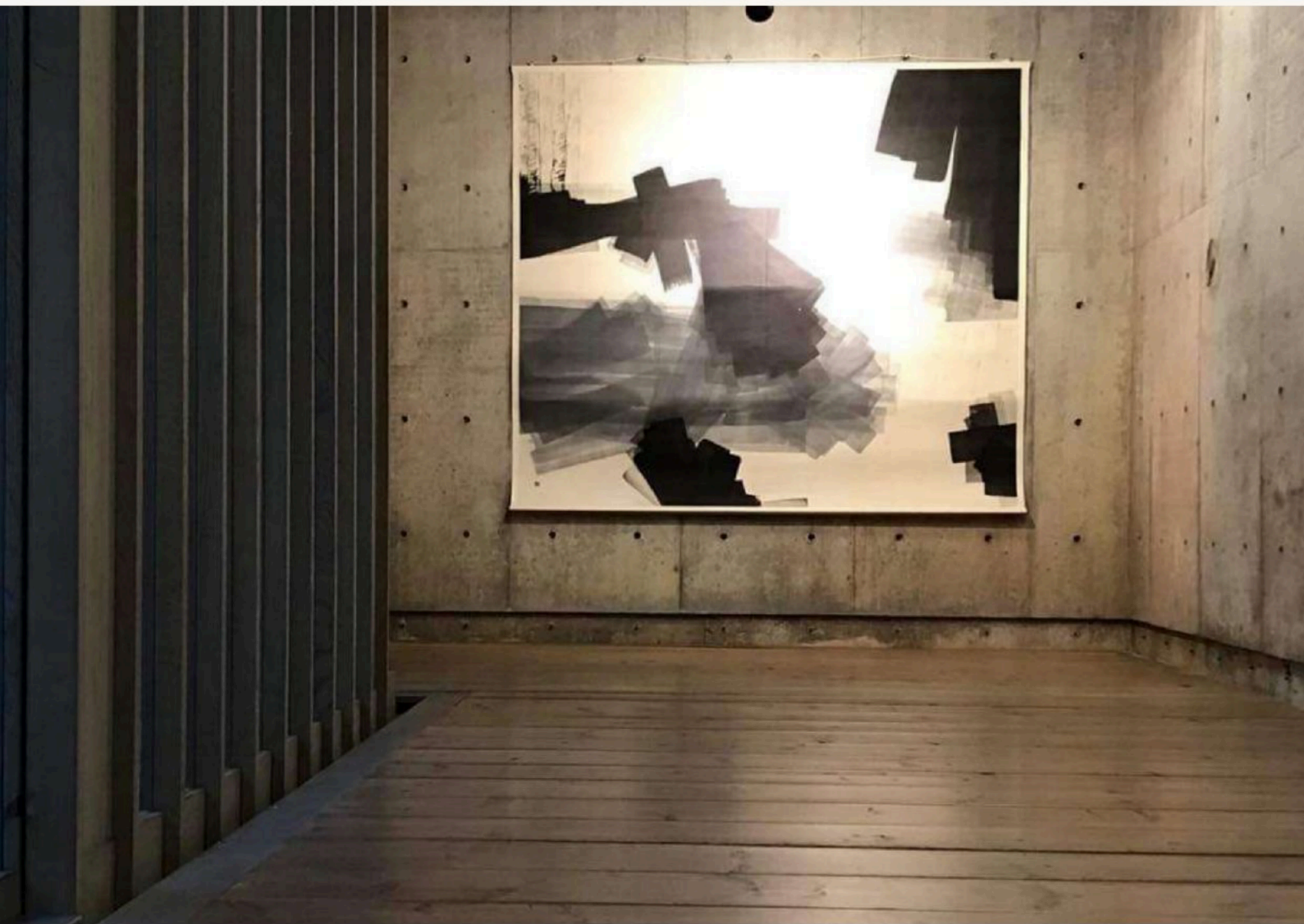




RIE OKABAYASHI

岡林里依

InfinityPranaRie

PORTFOLIO

Painting / Site-Specific Art / Architectural Art

GENESIS

写真：西麻布ハウスM

すべての仕事の原点

約35年前、私は書の世界を離れ、
「自分の心の絵」を描くことを決めました。

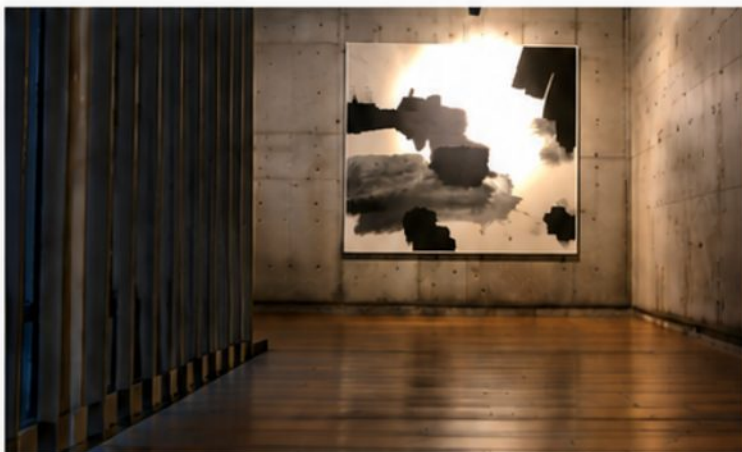
約2メートル四方の、継ぎ目のない一枚の中国紙。
その大きな一枚の紙に向かい、自分の心のままに描いた作品です。

完成から5年後、今から約30年前、
私はこの作品を携えてパリへ渡りました。
そして、パリの著名な画商、エンリコ・ナヴァラ氏に
直接作品を見ていただきました。

当時、バブル崩壊後の厳しい状況のなかで、
所属する20人のアーティストを5人に絞らざるを得ないと、
残念そうに話していらしたことを覚えています。

それでも、私の作品に示してくださった反応は、
自分の表現を信じて進むための、大きな力になりました。

それから約35年。
GENESISは、今も私のすべての仕事の原点です。



雲雀丘学園創立50周年記念

告天舎 壁画「響」



《響》 2001

雲雀丘学園創立50周年記念として、告天舎のために制作したサイトスペシフィック壁画。

《Air》 - クロスエアタワー、東京



《Air（気）》2013 / エントランス・ロビー作品

東京都池尻大橋・クロスエアタワーのための建築空間作品。

Infinity Prana が生まれた原点

東日本大震災後の南相馬で、描くことの意味を失ったところから

東日本大震災の後、仙台のデザイン会社から、南相馬の会社のエントランスに飾る約2メートルの作品をご依頼いただきました。

打ち合わせで津波の跡を巡ったとき、私は絶望し、「アートが何だ」と強く思いました。そして何日も逡巡し、苦しみ、どうしても制作に向かうことができませんでした。

けれど、ある日、ずっと気持ちが楽になりました。

そうだ。

私は、人々がどんな状況にあっても幸せを感じる、

そのエネルギーを描こう。

そんなエネルギーシャワーを降らせよう。

私には、人の置かれている条件そのものを変えてあげることはできません。お家を失った方に、お家を建てて差し上げることもできない。けれど、人間がもともと持っている、どんな条件のもとでも幸せを感じる力に触れることなら、できるかもしれない。

そんなエネルギーのシャワーを降らせよう。そう思ったとき、私はもう一度、描く勇気を取り戻しました。

そして、そのとき生まれたのが《愛と幸福の祈り》です。まだ現在の Infinity Prana の完成形ではありませんでしたが、「幸せのエネルギーそのもの」を描こうとして生まれた、最初の作品でした。

その二作目は、サンクトペテルブルグで開かれた国際女流展に招かれ、展覧会の看板作品となりました。ロシアの方々は「ハートでわかる」と言ってくださいました。

15年かけて、Infinity Prana へ

形をつくるのではなく、エネルギーを描き続けた時間

《愛と幸福の祈り》から、私は「エネルギーを描く」という作業に入っていました。

現在の Infinity Prana にたどり着くまでには、約15年かかりました。特に最後の10年は、ほとんど Infinity Prana ばかりを描き続けました。

作品には、祈りを込めながら無数の輪を重ねてきました。金の「祈りの輪」を中心に、お客様のご要望で銀の輪を描いたことも、プラチナの粉を使って描いたこともあります。

けれど、描き続けるほどに、私にとって大切なのは、金か銀か、どんな形であるかということではなくなっていました。

作品が空間に置かれたとき、そこに生まれる力。

見る人が、理由を説明できなくても何かを受け取ること。

そのことの方が、少しずつ確かなものとして現れてきました。

形を描くことから、目には見えない生命のエネルギーそのものを描くことへ。祈りを込めて輪を重ね続ける時間の中で、私の表現は少しずつ変わっていききました。

そして、長い年月を経て、現在の Infinity Prana へとたどり着いたのです。

愛と光のエネルギー。

しなやかで、たおやか。

ひたすら自由。

決して戦わない強さ。

私が描き続けてきたのは、人と空間へ降り注ぐ、幸せのエネルギーです。

ライフワークとして

Infinity Prana

—



Infinity Pranaは、絶えず循環する線の重なりを通して、目に見えないエネルギーを描くシリーズです。

作品は一枚の絵画として存在すると同時に、建築空間へと拡張していきます。

大型作品



Infinity Prana 第1作目



国指定重要文化財 旧田中家住宅



6m作品《飛翔》

旧田中家住宅

国指定重要文化財

歴史ある畳の大広間に6メートルの作品を展開し、現代のエネルギーと日本建築のあいだに対話を生み出しました。



高知県安芸市生まれ。
1997年、パリで墨の抽象画を発表後独自の世界を切り開く。
土佐漆喰に描く壁画や舞台美術など空間アート、
テーブルウェアやレイベル、ロゴデザイン、
雑誌に墨アート、エッセイの連載など、その表現は幅広く、
国内外で評価されているアーティストである。

- 1997 ・ 個展 Galerie. F. Charpentier (パリ,フランス)
・ 個展 Chung Art Gallery (ソウル,韓国)
- 1998 ・ “Flowers Of The World” 沿海州美術館 (ウラジオストック,ロシア)
・ 個展 “Tokyo New York そしてRomeへ” 銀座松屋 美術画廊 (東京)
・ 荏原製作所 藤沢工場アートワーク “凧” 制作
- 1999 ・ New York Art Expo '99 (ニューヨーク)
- 2000 ・ 同徳 Art Gallery (ソウル,韓国)
・ 個展 伊勢丹美術画廊 (浦和,埼玉)
- 2001 ・ 雲雀丘学園創立50周年記念 “告天舎” 内 壁画 “響” 制作
・ The 3rd Women of the World Exhibition Ballarat Fine Art Gallery (バララット,オーストラリア)
・ 個展 東武船橋 美術画廊 (船橋,千葉)
・ International Women Exhibition Mira Gallery (メルボルン,オーストラリア)
・ シンガポール アートフェア East and West Gallery Melbourne
- 2002 ・ OBP美術展2002 特別企画 “15mの墨の連鎖” を制作
- 2003 ・ 大西香次郎 vs 岡林里依 “Jardin” 展 銀座松坂屋
・ 第4回ICWA国際女流美術展「Women of the World -愛と平和と芸術と-」(世田谷美術館)をオーガナイズ
・ CHANEL & マリ・クレールコラボレーション企画
“CHANCE” 発売記念インターナショナルコンクール ビジュアル化制作
- 2004 ・ ワコール2004秋冬コレクション ステージデザイン
・ 舞台美術 “椿姫 -yumiko-” (天王洲アイル アートスフィア)
- 2005 ・ アシェット婦人画報社「25ansヴァンサンカン」巻頭ページ「マチュアへの旅立ち」に墨アート連載(～2006)
・ 個展 伊勢丹新宿店アートギャラリー
・ 岩佐正樹 岡林里依 展 プロデュース (代官山・ヒルサイドテラス)
・ 100% Design Tokyoにおいてテーブルウェアデザインを発表
- 2006 ・ 個展 伊勢丹新宿店 アートギャラリー
・ 岡林里依デザインテーブルウェア “絆 KIZUNA” 発売
- 2007 ・ TV東京 “ワールドビジネスサテライト” オープニングタイトル 光シリーズ (～2008)
・ 静岡伊勢丹にて個展
- 2009 ・ 高知新聞社女性向け月刊タブロイド紙 K+(ケイプラス)に書とエッセイ “夢の始まり” を連載 (～2010)
- 2010 ・ 空間アート、環境アート制作多数 (～2012)
- 2013 ・ 池尻大橋クロスエアタワー エントランスとロビーのアートワーク “Air (気)” 制作
・ 個展 ギャラリーゴトウ (銀座,東京)
- 2014 ・ グループ展 ギャラリー夏 (総曲輪,富山)
・ 個展 ギャラリーWa Space (赤坂,東京)
・ 国際女流美術展 “Flowers Of The World” Gallery Mokhovaya-18 (サンクトペテルブルグ,ロシア)
・ East & West Art Gallery (メルボルン,オーストラリア)
- 2015 ・ 個展 ギャラリー徳の蔵 (三宿,東京)
- 2019 ・ JCD (一般社団法人 日本商環境デザイン協会) 正会員
- 2021 ・ 個展 Infinity Prana -愛と光のエネルギーを世界に届けよう- 岡林里依展 Fireking Cafe (東京)
- 2022 ・ 個展 Infinity Prana と 水の音 -愛と光のエネルギーを世界に届けよう-岡林里依 Fireking Cafe (東京)
- 2022 ・ 6月17日 JCD60周年記念セミナー「空間とアートのフュージョン」ゲストとして登壇 (東京)
・ 10月～11月 国指定重要文化財 旧田中家住宅 “時の聲” 展 (川口,埼玉)
- 2023 ・ 個展 “眼に見えないエネルギーを描く” Infinity Prana 展 HouseM 西麻布 (東京)
- 2024 ・ Infinity Prana オートクチュールのオーダー作品を通年制作。東京を拠点に制作活動を続ける。
- 2025 ・ 11月まで Infinity Prana オートクチュールのオーダー作品を継続制作。
- 2026 ・ 新シリーズ「Infinity Prana Cosmos」を発表。オートクチュールとともに新たな作品販売を開始。

岡林里依

高知県安芸市生まれ。1997年にパリで墨の抽象画を発表後、土佐漆喰の壁画、舞台美術、空間アート、テーブルウェア、ラベル、ロゴデザイン、墨アート、エッセイなど、領域を横断する独自の活動を展開。作品は国内外で発表され、評価されている。

主な活動領域

絵画 / サイトスペシフィック・インスタレーション / 建築空間アート / コミッションワーク

国際的なコラボレーション

展覧会、サイトスペシフィック・プロジェクト、文化施設、建築家、デザイナー、コレクターとの協働に対応しています。

岡林里依

INFINITY PRANA

@infinityprana.rie

www.rieokabayashi.tokyo

info@rieokabayashi.tokyo



INFINITY PRANA / FROM PAINTING TO ENVIRONMENT

目に見えないエネルギーを、空間へ

INVISIBLE ENERGY AS SPATIAL PRESENCE

Infinity Prana - 作品から「場」へ

Infinity Prana は、目には見えない生命の流れを、墨と金の線、そして祈りを込めて重ねる無数の輪によって描く作品です。愛と光のエネルギー。しなやかで、たおやか。ひたすら自由。決して戦わない強さ。そして、豊かさをもたらすエネルギー。一枚の絵として完結するのではなく、作品が入ることで空間に新しい循環が生まれ、人の感覚やその場の質が少し変わることを願っています。

INFINITY PRANA が生まれた問い

東日本大震災の後、南相馬の会社のエントランスに飾る約2メートルの作品をご依頼いただきました。津波の後、何もかもが失われた土地を前に、「こんな時にアートが何なのだろう」という問いが立ち上がりました。

それでも、絶望のただ中でさえ、人間には幸せを感じる素質がある。ならば、形あるものではなく、人が幸せを感じる、そのエネルギーそのものを描こう。そして作品から、見る人や空間へエネルギーのシャワーを降らせたい。Infinity Prana の原点は、そこにあります。

建築・空間における制作 / SITE-RESPONSIVE / COMMISSIONED ART

- **AIR / Cross Air Tower, Tokyo** エントランスとロビーのための2作品。建築の視線、光、人の移動を受け取り、建物を通過する体験の一部となるよう構想。
- **HIBIKI / 雲雀丘学園「告天舎」** 漆喰壁に墨で直接描いた壁画。素材と日本建築の空間に呼応し、場に静かな振動と共鳴を生むサイトスペシフィック作品。
- **INFINITY PRANA / Spatial Works** 大型作品、壁面、通路、ロビー、ホテル、住空間へ。絵画の枠を越え、距離、光、身体の動きとともに体験される「エネルギーの場」へ展開。

建築家・デザイナーとの協働について

壁面、エントランス、ロビー、住宅、ホテル、文化施設など、建築やインテリアの計画段階からのご相談に対応しています。完成した作品を選ぶだけでなく、空間の光・素材・動線・スケールを読み取り、その場所のための新しい作品を制作することができます。アートが空間の「仕上げ」ではなく、その場所の記憶や感覚をつくる一部になることを目指しています。

RIE OKABAYASHI / ARTIST / CREATOR OF INFINITY PRANA

空間との対話から生まれるアート

ART IN DIALOGUE WITH SPACE

私は30年以上、壁面、エントランス、ロビー、室内空間など、建築のためのコミッションワークを制作してきました。作品を一つの物体として置くのではなく、光、素材、人の動き、視線、空間のリズムを受け取り、その場所だからこそ生まれる作品をつくることを大切にしています。

空間との対話 / DIALOGUE WITH ARCHITECTURE

制作は、設計図だけを見ることから始まるわけではありません。クライアント、建築家、空間デザイナーと直接対話し、できる限り素材の実物に触れ、その場所の光、質感、動線、静けさまで感じ取ります。そこから、空間に後から付け加える「装飾」ではなく、建築とともに存在する作品を立ち上げていきます。

クライアントのイメージを超える / BEYOND THE EXPECTED

私がコミッションワークで大切にしてきたのは、相手を喜ばせること、意外性を生むこと、そしてクライアントが最初に思い描いていたイメージを超える作品をつくることです。要望をそのまま形にするのではなく、その人、その建築、その場所に潜んでいる可能性を受け取り、まだ言葉になっていないものまで作品として提示したいと考えています。

墨のエネルギー / THE ENERGY OF SUMI

私にとって墨は、単に黒い色を置くための素材ではありません。線の色、線の速度、滲み、濃淡、余白によって、目に見えない動きや気配を空間に定着させるものです。雲雀丘学園・告天舎の壁画《響》では、漆喰壁に直接墨で描くことで、作品は支持体を離れ、日本建築の空間そのものと呼応しました。墨は「絵」の輪郭を越え、場に振動や静かな共鳴を生み出します。

作品は、空間の中に置かれるのではなく、
空間の質そのものに関わる存在でありたい。